

令和4年度

那珂市原子力防災訓練 実施報告書

令和4年11月20日(日)実施

那 珂 市

1 訓練の概要

(1) 目的

那珂市地域防災計画に基づき、東海第二発電所における原子力災害を想定した実動訓練を実施し、緊急事態時の対応・体制を確認するとともに、P A Z (※1) 住民の避難先自治体（筑西市）への広域避難訓練などの防護措置を通して、関係機関との連携に向けた経験を蓄積し、原子力防災体制の確立及び現在策定中の「那珂市広域避難計画」の検証と実効性の向上を図る。

また、訓練を通じて住民の原子力に対する防災意識を高め、市における原子力防災力の向上を図ることを目的とする。

(2) 実施日時・場所

日時：令和4年11月20日（日） 8時～15時

場所：那珂市役所（災害対策本部室）、本米崎体育館、いきり苑那珂
筑西市立関城西小学校、筑西市立生涯学習センター 他

(3) 訓練項目

- ・ 災害対策本部運営訓練
- ・ 住民情報伝達訓練
- ・ 関係機関・避難先自治体との連携訓練
- ・ P A Z 広域避難訓練
- ・ U P Z (※2) 住民屋内退避訓練
- ・ 要配慮者施設の屋内退避訓練

○感染症流行下での原子力災害を想定し、感染症拡大防止対策の対応手順もあわせて確認した。

(4) 対象となる事業所

日本原子力発電株式会社 東海第二発電所

(5) 訓練参加機関

茨城県、筑西市、桜川市、茨城県警那珂警察署、茨城県警筑西警察署、
（福）新世会特別養護老人ホームいきり苑那珂、那珂市社会福祉協議会、
日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター、
日本原子力発電株式会社東海事業本部

(6) 訓練参加者数

- ・ 住民 本米崎地区住民74人及びU P Z 屋内退避訓練参加者
- ・ 関係機関 53人
- ・ 那珂市 65人

(7) 訓練想定

11月20日(日)午前7時、コロナ禍の中で、茨城県北部沖を震源とする地震(東海村・震度6強、那珂市・震度6弱)が発生した。

東海第二発電所では、この地震の影響により、使用済燃料プールの水位が低下し、『警戒事態』となる。その後、使用済燃料プールの水位が燃料頂部から2mの位置まで低下し『施設敷地緊急事態』に、さらに使用済燃料プールの水位が燃料頂部まで低下し『全面緊急事態』へと事態は進展する。

内閣総理大臣は「緊急事態宣言」を発出。これを受けて、那珂市原子力災害対策本部は、非常体制をとり事態の進展に対応した応急対策を実施するとともに、市内のPAZ住民に対する広域避難及びUPZに屋内退避の措置を実施する。

※1 PAZ・・・即時避難区域 原子力発電所からおおむね5km圏内
市内では本米崎地区

※2 UPZ・・・避難準備区域 原子力発電所からおおむね30km圏内
本米崎地区を除く市内全域

2 訓練評価の概要

(1) 評価目的

原子力災害に関する防災体制の実効性の確認、市地域防災計画や市広域避難計画(案)の検証及び改善等を図ることを目的とする。

(2) 評価方法

ア 自己評価

災害対策本部員及び本部要員の自己評価については、訓練後に各訓練拠点において気づき、課題等の共有を図る“振り返り”等を実施した。また、関係機関から意見聴取を行い、気づき・課題等を抽出した。

イ アンケート

訓練効果を客観的かつ総合的に把握するため、訓練参加者(PAZ住民)及びPAZを除く市民全員(UPZ住民)を対象に“アンケート”を実施した。

ウ 外部評価

原子力防災の実効性を向上させるため、専門的見地からの評価として、日本原子力研究開発機構原子力緊急時支援・研修センター(以下「NEAT」という。)による外部評価を実施した。

これら振り返りやアンケート、外部評価等の結果を分析、整理・統合し、訓練における「成果・良好事例」と「課題・改善すべき点及び今後の対応」に区分し、評価結果を取りまとめた。

なお、外部評価、アンケート結果から得た評価等については、以下の凡例を末尾に記載する。

<外部>NEATによる外部評価から引用

<アンケート>アンケート結果から引用

訓練項目別の評価の実施の有無等を表に示す。

表 訓練評価の実施の有無等

訓練項目名	自己評価	アンケート	外部評価
①災害対策本部運営訓練	○	—	○
②住民情報伝達訓練	○	○	○
③関係機関・避難先自治体との連携訓練	○	—	—
④P A Z 住民避難訓練	○	○	○
⑤U P Z 住民屋内退避訓練	○	○	○
⑥要配慮者施設の屋内退避訓練	○	—	—

3 訓練項目別の評価結果

(1) 災害対策本部運営訓練

- ・災害対策本部員及びあらかじめ定められた本部要員が参集し、体制の再確認を行った。
- ・事故の状況を把握しながら、事態の進展に応じた市の取るべき措置等の検討及び意思決定を行った。
- ・住民に対する情報伝達の手順、内容等の確認を行った。
- ・感染症流行下での原子力災害時における防護措置の確認を行った。
- ・広域避難先である筑西市に現地対策本部を設置し、本部員等を派遣し、情報収集及び通信訓練を行った。

■成果・良好事例■

- 災害対策要員の参集・配置、体制確立、対策本部の運営等は迅速・スムーズに行われた。＜外部＞
- 警戒事態の発生から全面緊急事態へと至る、事態の進展に応じた防護措置を各班が確認し、緊急時の対応が適切に行われた。
- I P 無線通信による、一時集合所や避難所、現地対策本部との状況把握、指示等が随時行われ、情報の一貫性が担保された。＜外部＞
- 感染症対策や安定ヨウ素剤の配布・服用について、流れや方法を含め明確な指示が発せられた。＜外部＞
- 住民広報する際に、本部会議で内容を共有・確認した上で各担当に指示し、多様な方法で繰り返し実施されておりスムーズに実行された。＜外部＞
- 現地対策本部を設置・運営し、現地での情報収集活動や筑西市との連絡調整、避難所との連絡体制などについて検証することができた。

■課題・改善すべき点及び今後の対応■

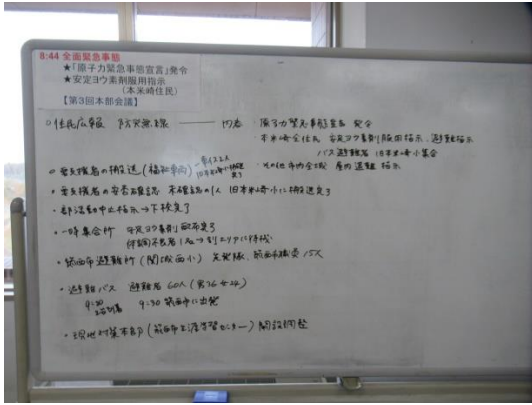
課題・改善すべき点	今後の対応
○ 地震対応の対策本部がすでに立ち上がっていることを前提条件に訓練が開始されたことから、本部立ち上げ訓練も実施する必要がある。＜外部＞	○ 複合災害の同時発生等も考慮した、本部立ち上げ等についても訓練を行う必要がある。
○ 訓練想定をさらに事象進展させて実施する必要がある。（U P Z への対応措置等について）	○ 放射性物質の放出後における、U P Z への防護措置等について、対応の確認を行う必要がある。
○ 形式的に決められた本部会議を開催することだけに訓練内容がとどまっていることから、プロセス主体の訓練を行う必要がある。＜外部＞	○ 情報取得、情報共有、対応協議などの報告、説明についても訓練で取り上げ、対応力と判断力の向上を図っていく。（シナリオの一部ブラインド化）
○ 現地対策本部での通信手段として、I P 無線の有効性を確認したが、国や県との通信手段の確保についても検討が必要である。	○ 県と広域避難における課題を、情報共有し多様な通信手段の確保に努める。



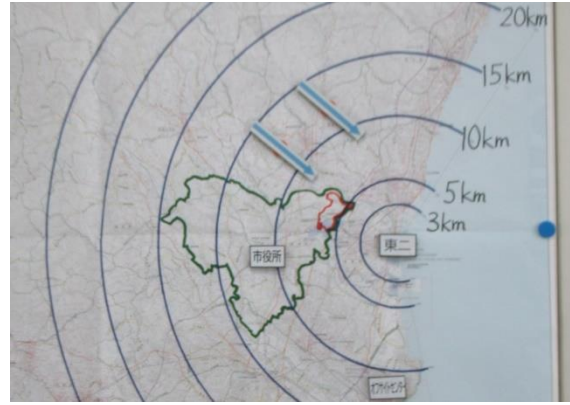
＜災害対策本部活動＞



＜事業所による状況説明＞



＜防護措置等の状況整理＞



＜地図を使用した状況整理＞



＜那珂警察署からの対応報告＞



＜筑西市での現地対策本部活動＞

（２）住民情報伝達訓練

- ・防災行政無線や緊急速報（エリア）メール、SNS等多様な手段を用いて、住民等に情報を伝達した。
- ・災害の概要、市民が行うべき防護措置（屋内退避、避難指示等）の情報を住民等に伝達した。

■成果・良好事例■

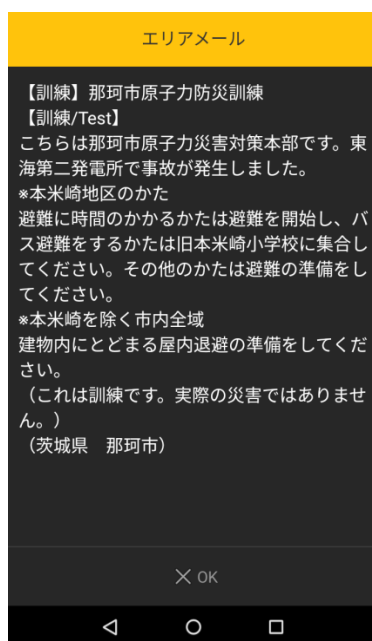
- 課題としていた「わかりやすい住民広報」について、本市にPAZとUPZが混在するなかで、それぞれのエリアの住民が的確に行動できるよう、広報内容の改善を図り、効果があった。＜アンケート＞
- 防災行政無線及び緊急速報（エリア）メールが、初動時の住民への情報伝達手段として有効であると再確認できた。＜アンケート＞
- 各情報媒体の特性を把握したうえで、事象の進展に合わせて、優先すべき情報を精査し、広報することができた。
- 多様な情報媒体を使用することで、それぞれの操作方法等を確認し、各要員の対応力の向上を図ることができた。また、各情報媒体の有効性について

も確認することができた。

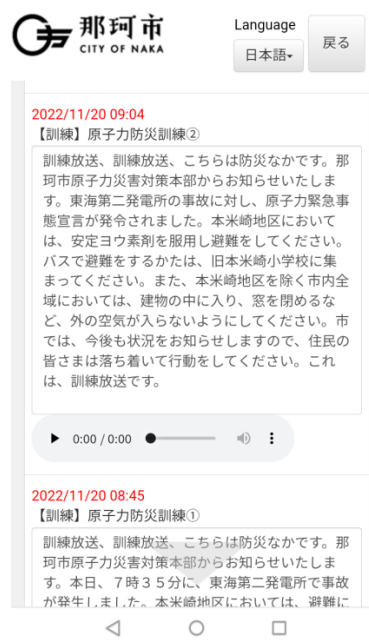
- 新たな広報手段として、防災アプリによる広報を実施し、操作性や有効性について検証することができた。

■課題・改善すべき点及び今後の対応■

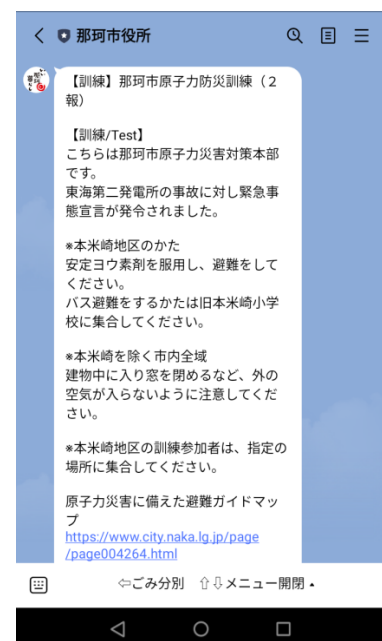
課題・改善すべき点	今後の対応
○ 文字による情報は、聞き逃しがいないため有効であるが、各情報媒体の制限が多岐に渡るため、整理しておくことが必要である。	○ 正確に情報が伝わるよう、情報媒体ごとの文字数制限などを考慮して、情報内容の優先順位をあらかじめ定めておく。
○ 住民の情報把握手段のほとんどが、防災行政無線や緊急速報（エリア）メールとなっていることから、情報把握手段の複数化を啓発する必要がある。	○ 市民に対して、複数の情報収集手段を準備しておくことが有効であることの啓発を図り、防災アプリなどの登録普及に努める。
○ 住民への広報の一環として、一時滞在者や外国人に対するフォローが必要である。＜外部＞	○ 一時滞在者や要配慮者への伝達に十分配慮した対策を検討する。なお、外国人に対するフォローの一環として、防災アプリが多言語化機能を有していることから、登録普及に努める。



＜エリアメール＞



＜防災アプリ＞



＜市SNS＞

(3) 関係機関・避難先自治体との連携訓練

- ・広域避難訓練を行う上での、バス等の配車について、県と連携し、バス等配車オペレーションシステムの操作手順について確認を行った。
- ・広域避難先となる筑西市・桜川市に対して、事象の進展に応じた各段階における通報及び依頼内容について確認を行った。
- ・情報共有の迅速化が図れるよう、通報連絡手段の方法について確認した。

■成果・良好事例■

- システムの操作手順等を確認し、要員の対応力の向上を図ることができた。
- 筑西市・桜川市の防災担当職員との連携を図り、災害時における各段階での確認事項や行動内容について確認できた。
- 一般回線が使用不能な場合を想定し、衛星通信回線などの操作確認をすることができた。

■課題・改善すべき点及び今後の対応■

課題・改善すべき点	今後の対応
○ バス等配車オペレーションシステムの接続や操作ができる要員を増やしておく必要がある。	○ 研修会や訓練等を通じて、引き続き、各要員の操作機会の確保及び対応力の向上に努めていく。
○ 通報連絡の確認のみにとどまり、他の訓練とは、連動していないことからさらなる内容の充実化が必要である。	○ 本部訓練との連携や、通報を受けた後の行動確認など、訓練内容の実効性を高めていく。
○ オフサイトセンターなどの国や県との連携・通信機器の取扱いについても確認が必要である。＜外部＞	○ 国や県と連携した訓練機会の確保を図るとともに、オフサイトセンターでの訓練へ職員を派遣し、対応力の向上に努める。

(4) P A Z 住民避難訓練

- ・一時集合所及び避難所の開設・運営の手順について確認を行った。
- ・国から安定ヨウ素剤の服用指示を受け、安定ヨウ素剤の効用や服用時の注意点等について説明した後、安定ヨウ素剤（模擬）を住民に緊急配布した。
- ・本米崎地区の住民を対象に、避難指示を合図に一時集合所での受付からバス避難及び自家用車避難による避難所（筑西市）までの避難行程について確認を行った。

- ・筑西市職員による避難所開設・運営の手順について確認を行った。また、那珂市職員との連携についても確認を行った。
- ・感染症流行下を想定し、以下の感染症対策を講じて実施した。
 - *受付前の検温、問診による体調確認により一般の方と体調不良者を分離し、一時集合所及び避難所での動線や待機場所の隔離を実施。
 - *マスクの着用、手指消毒、大声での会話の自粛、ソーシャルディスタンスの確保。
- ・訓練参加者に放射線基礎や原子力防災についての講座を行った。

■成果・良好事例■

【一時集合所（本米崎体育館）】

- 避難者に対する感染症対策、受付からバス避難までの一連の対応について、検証することができた。
- 課題としていた「受付の円滑化」について、感染症対策やレイアウトの見直しにより動線を確保した。また、受付カードなどの記載内容を簡略化するとともに、案内係による誘導の強化を図ることで、避難者を滞留させることなく、受入れることができた。
- 避難者に対して管理番号を付することで、避難住民の把握・管理等のコントロールを図ることができた。＜外部＞
- 安定ヨウ素剤の緊急配布方法について、個々人に対する説明と集団に対する説明を重ねることで、服用に関する知識の習熟をさらに図ることができた。＜外部＞＜アンケート＞

【バス車内】

- 市職員による状況説明や避難行程の説明などわかりやすく実施できた。＜外部＞
- 長時間の移動行程となるため、休憩ポイントの確認などを検証できた。＜外部＞

【避難所（筑西市）】

- 自家用車避難、バス避難に加えて、感染症による体調不良者など受入れに関する行動について検証することができた。
- 個室ブースや簡易ベッドが用意されていたことで、避難生活のイメージを与えることができた。＜外部＞
- 筑西市職員と合同で避難所運営を行うことで、役割分担や連携について検証することができた。
- 筑西市では、初めての原子力訓練となったが、自然災害とは異なる対応について、避難者への感染症対策や受付など一連の対応を確認することができた。

【全体】

- 課題としていた「感染症対策に係る対応力の向上」について、昨年同様、コロナ禍における発災を想定し、一時集合所及び避難所においては建屋外部での検温・問診等により早期に体調不良者を発見し、その後の動線を分けるなど、感染症対策の確認をすることができた。＜外部＞
- 実際の避難訓練を体験したことで、筑西市の避難所までの距離感と所要時間がイメージできた。＜アンケート＞
- 訓練に参加したことで、避難に必要な準備や家族との連絡方法など沢山の気づきがあった。＜アンケート＞

■課題・改善すべき点及び今後の対応■

課題・改善すべき点	今後の対応
○ 一時集合所内で、避難者が情報を取得する手段がなく、防災行政無線の放送も体育館内では聞こえづらい。＜外部＞	○ 一時集合所に戸別受信機を持ち込むなどして、避難者に災害情報が届くよう対応していく。
○ 避難準備情報で、避難を開始した住民に対するフォローが不十分であった。＜外部＞	○ 研修会や訓練を通して、一時集合所での対応について、各要員の対応力の向上を図っていく。
○ 安定ヨウ素剤の服用指示について、自家用車避難者とバス避難者に対して異なるタイミングでの服用指示となってしまった。＜外部＞	○ 効果的に被ばくを予防するには、安定ヨウ素剤の服用指示のタイミングが重要であるため、県などとも協議し整理する。
○ 訓練であることから、一時集合所及び避難所とも十分時間をかけて準備・開設されていた。開設作業についても訓練が必要である。＜外部＞	○ 一時集合所・避難所それぞれに必要な資機材の確認や、人員の選定、開設完了までの時間等を確認していく。
○ 昨年度の検証を踏まえて、各要員の配置を行ったが、継続して適正な人員配置の検討が必要である。	○ 実際の緊急事態を想定し、より少数の人数でも対応できるよう訓練を重ねていく。
○ 避難所において、避難用品や避難用テントが準備されていたが、体験する機会が設けられていなかった。＜外部＞	○ 効果的な訓練となるよう、内容や時間配分について検討する。

○ P A Z 住民の避難訓練だけでなく、U P Z 住民の避難訓練も行うことも必要である。＜外部＞

○ 今後、段階的に訓練項目を拡充し、U P Z 住民の訓練も含め、実践的な訓練内容になるよう検討していく。



＜一時集合所での感染対策 1＞



＜一時集合所での感染対策 2＞



＜一時集合所での受付＞



＜安定ヨウ素剤の緊急配布＞



＜避難バスへの乗車＞



＜バス車内での防災講習会＞



＜避難所でのバス誘導＞



＜避難所での感染対策＞



＜避難所での受付＞



＜避難者受付カードの記入＞



＜体調不良者の受付＞



＜パーティションテント＞

	全体	体調良好者		体調不良者	
		バス	自家用車	バス	自家用車
11:00	6	0	6	0	0
11:15	7	0	7	0	0
11:30	30	30	0	0	0
11:45	33	0	30	0	3
合計	76	30	43	0	3

＜避難者数の情報共有＞



＜市長講評＞

（５）ＵＰＺ住民屋内退避訓練

- ・緊急時防護措置を準備する区域（ＵＰＺ）となる本米崎地区を除く市内全域の住民を対象として、屋内退避指示を合図に、合わせて屋内退避の手順について確認を行った。
- ・訓練実施にあたっては、「屋内退避対応マニュアル」を事前に配布し、屋内退避の重要性とポイントについて周知を行った。

■成果・良好事例■

- 全面緊急事態におけるＵＰＺの基本的な防護措置である屋内退避について、昨年より住民に対し理解促進を図ることができた。＜アンケート＞
- 屋内退避の実施手順について、確認し実践をすることで屋内退避手順の一定程度の習熟を図ることができた。＜アンケート＞
- 課題としていた「段階的避難の更なる住民理解の促進」について、昨年に引き続き、訓練実施前に避難行動を記したマニュアルを配布するなど、広報活動を行い更なる理解促進を図ることができた。＜アンケート＞

■課題・改善すべき点及び今後の対応■

課題・改善すべき点	今後の対応
○ 広域避難に関する理解が５割程度であることから、原子力災害に関する情報の更なる周知が必要である。 ○ 訓練参加者をさらに増やし、関心を持ってもらう必要がある。	○ 多くの方が訓練をきっかけに確認をすることから、継続して訓練を実施するとともに、参加を促す事前周知について、広報・周知方法を検討していく。
○ ＵＰＺについては、屋内退避までの訓練にとどまっていることから、避難や一時移転についても、情報提供及び訓練を実施していく必要がある。＜外部＞	○ 市内の大部分がＵＰＺになることから、災害時の対応についての周知を充実させるとともに、避難を含めた訓練の実施を検討する。

（６）要配慮者施設の屋内退避訓練

- ・ＵＰＺに立地する放射線防護対策を施した福祉施設（特別養護老人ホームいくり苑那珂）において、市からの災害情報により入居者の避難訓練（陽圧化エリアへの移動）を行った。
- ・陽圧化装置の稼働訓練を実施し、施設職員による建屋内の陽圧化確保について手順等の確認を行った。

■成果・良好事例■

- 屋内退避時における入居者の避難誘導等、施設職員の対応について、検証することができた。
- 陽圧化装置の稼働を実際に行うことで、施設内の確認箇所や機械操作について施設職員の対応力向上が図れた。
- 民間の福祉施設と合同で訓練を実施することで、災害時における今後の連携などについて課題抽出・検証することができた。

■課題・改善すべき点及び今後の対応■

課題・改善すべき点	今後の対応
○ 今回は、車いす利用の入居者の移動を行った。今後は寝たきりの入居者の移動についても訓練を行う必要がある。	○ 災害時には、限られた職員数での対応が求められることから、継続した訓練の実施を検討する。
○ 操作マニュアルが、手元に準備できないなど、陽圧化装置の操作に時間を要した。	○ 交代勤務の職場であることから、職員全体が機器操作に対応できるよう、マニュアルの複数配置や操作機会を確保していく。



<施設職員による入居者の避難活動>



<陽圧化エリアの設定>



<陽圧化装置の操作訓練>

◆今後に向けた検討項目◆

○ 災害時の対応力向上

- ・ 昨年から2回の訓練を実施し、災害対策本部訓練においては、事態の進展に応じた防護措置の確認を実施した。今後はシナリオを一部非公開とするブラインド型訓練などを取り入れ、状況に合わせた防護措置を各班が検討するなど対応力向上を図る。
- ・ システム操作や機材の取扱いなどの操作研修の機会を設けるとともに、要素訓練などを取り入れ、各種要員の確保を図る。

○ EAL、OIL※に基づく防護措置に係る訓練

- ・ 本訓練では、PAZの広域避難を実際の避難先まで実施した。今後は、市内のほとんどがUPZであることから、屋内退避の重要性や効果を周知するとともに、放射性物質放出後の避難や一時移転についても訓練を実施する。
- ・ 避難退域時検査の訓練を実施し、関係機関との連携強化を図る。
- ・ 避難行動要支援者の避難について、避難支援等関係者と連携して、避難の実効性の向上を図る。

○ 避難先自治体との連携強化

- ・ 本訓練では、実際の避難先まで住民移動を実施したことで、連絡体制や避難所運営・避難者受入れ等さまざまな検証をすることができた。今後は、避難先自治体と更なる調整を図り、広域避難の実効性の向上を図る。

○ 住民周知の強化

- ・ 住民アンケート結果などから、広域避難する際の避難先などについて訓練時だけでなく、平時からの広報などを充実させ住民理解を図る。
- ・ 災害時の情報発信については、引き続き住民に対してわかりやすい表現で届くよう広報文などについて検討していく。

○ 感染症対策を講じた防護措置に係る訓練

- ・ 引き続き感染症対策の継続が必要であることから、一時集合所や避難所での対応能力の向上を図る。

※EAL (Emergency Action Level) : 緊急時活動レベル。緊急事態区分（警戒事態・施設敷地緊急事態・全面緊急事態）に該当する状況であるか否かを原子力事業者が判断するための基準。

※OIL (Operational Intervention Level) : 運用上の介入レベル。放射性物質放出後の防護措置の実施を判断するための基準。

4 アンケート結果

PAZ住民避難訓練

【概要】

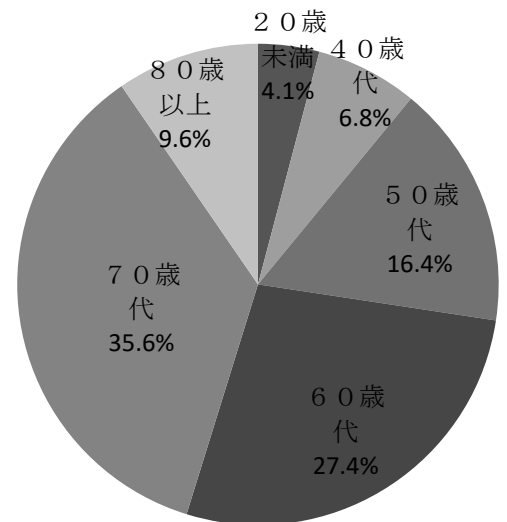
PAZ住民避難訓練の参加住民を対象にアンケートを実施し、73人から回答を得た。

※参加者74人中73人回答(1人は未回答)

※集計表下部の★はR3訓練アンケートの集計値を記載

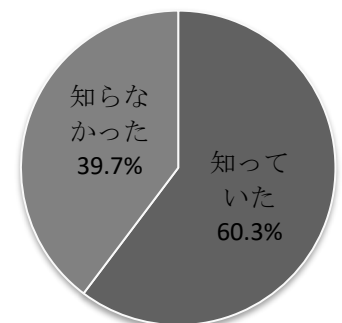
質問1 年齢(令和4年4月1日現在)を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
20歳未満	3	4.1%
20歳代	0	0.0%
30歳代	0	0.0%
40歳代	5	6.8%
50歳代	12	16.4%
60歳代	20	27.4%
70歳代	26	35.6%
80歳以上	7	9.6%
合計	73	100.0%



質問2 お住まいの地域が、PAZまたはUPZのどちらの区分に該当するのか知っていましたか。

選択肢	回答数	構成比
知っていた	44	60.3%
知らなかった	29	39.7%
合計	73	100.0%

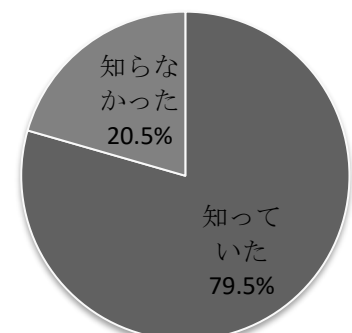


★R3年「知っていた」 62.2%

質問3 原子力災害が発生して避難をする場合、次のことを知っていましたか。

① バスなどで避難する場合の一時集合所

選択肢	回答数	構成比
知っていた	58	79.5%
知らなかった	15	20.5%
合計	73	100.0%

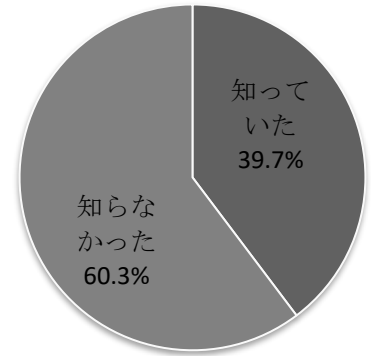


★R3年「知っていた」 59.5%

② 主な避難経路

選択肢	回答数	構成比
知っていた	29	39.7%
知らなかった	44	60.3%
合計	73	100.0%

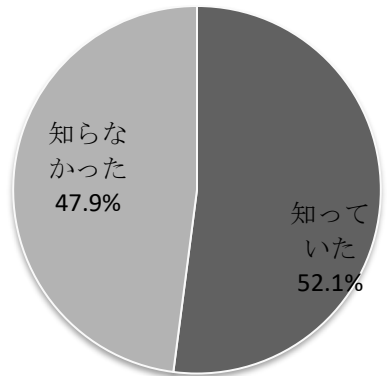
★R3年「知っていた」 40.5%



③ 指定避難所(筑西市・関城西小学校)

選択肢	回答数	構成比
知っていた	38	52.1%
知らなかった	35	47.9%
合計	73	100.0%

★R3年「知っていた」43.2%

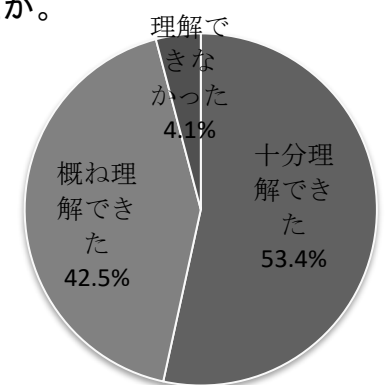


質問4 安定ヨウ素剤の配布を受けた際の説明は理解できましたか。

選択肢	回答数	構成比
十分理解できた	39	53.4%
概ね理解できた	31	42.5%
理解できなかった	3	4.1%
合計	73	100.0%

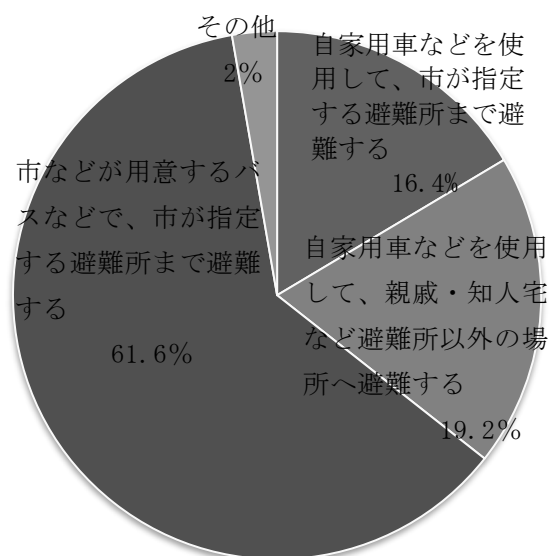
★R3年「十分理解できた」35.1%

「概ね理解できた」56.8%



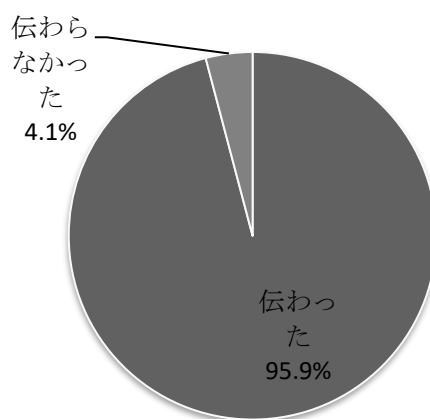
質問5 原子力災害が発生し、お住まいの地域に避難指示があった場合、どのように避難しますか。

選択肢	回答数	構成比
自家用車などを使用して、市が指定する避難所まで避難する	12	16.4%
自家用車などを使用して、親戚・知人宅など避難所以外の場所へ避難する	14	19.2%
市などが用意するバスなどで、市が指定する避難所まで避難する	45	61.6%
その他	2	2.7%
合計	73	100.0%



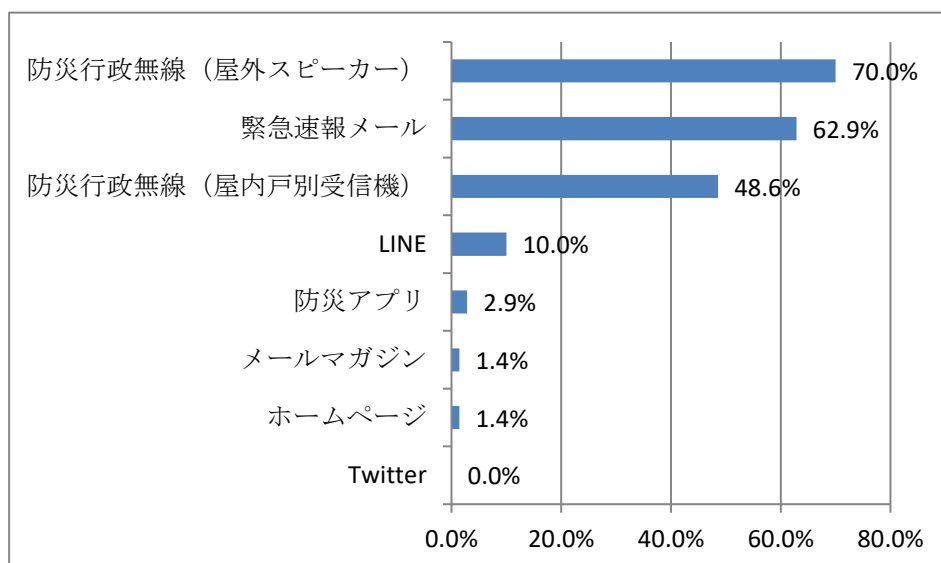
質問6 今回の訓練において、市が防災行政無線や緊急速報メールなどで発信した情報は伝わりましたか。

選択肢	回答数	構成比
伝わった	70	95.9%
伝わらなかった	3	4.1%
合計	73	100.0%



質問6で「伝わった」と回答したかたへの質問 どの広報手段でしたか。
(複数回答)

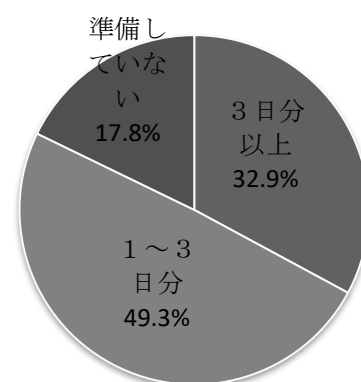
選択肢	回答数	構成比	選択率
防災行政無線(屋外スピーカー)	49	35.5%	70.0%
防災行政無線(屋内戸別受信機)	34	24.6%	48.6%
緊急速報メール	44	31.9%	62.9%
ホームページ	1	0.7%	1.4%
防災アプリ	2	1.4%	2.9%
LINE	7	5.1%	10.0%
メールマガジン	1	0.7%	1.4%
Twitter	0	0.0%	0.0%
合計	138	100.0%	197.1%



※グラフは選択率を表示

質問7 災害に備え、ご家庭にはどれくらいの食糧を備蓄していますか。

選択肢	回答数	構成比
3日分以上	24	32.9%
1～3日分	36	49.3%
準備していない	13	17.8%
合計	73	100.0%



質問8 筑西市に避難して気づいた点・意見（自由記述）

- ・避難先の距離感と時間がイメージできた。
- ・自家用車で避難できるか不安に思った。

質問9 自由記述（主な意見）

【訓練の実施について】

- ・本当に災害が起きたら訓練のようにスムーズには避難できないと思う。

【普段の備えについて】

- ・地道な訓練の積み重ねが災害時の行動に役立つと思った。

UPZ住民屋内退避訓練

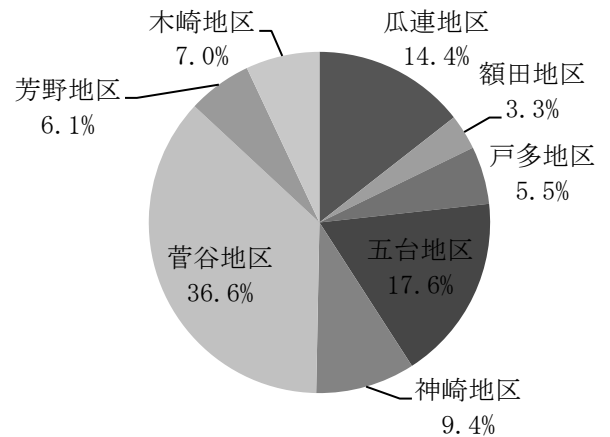
【概要】

UPZ住民屋内退避訓練の対象住民にアンケートを実施し、658人から回答を得た。

※集計表下部の★はR3訓練アンケートの集計値を記載

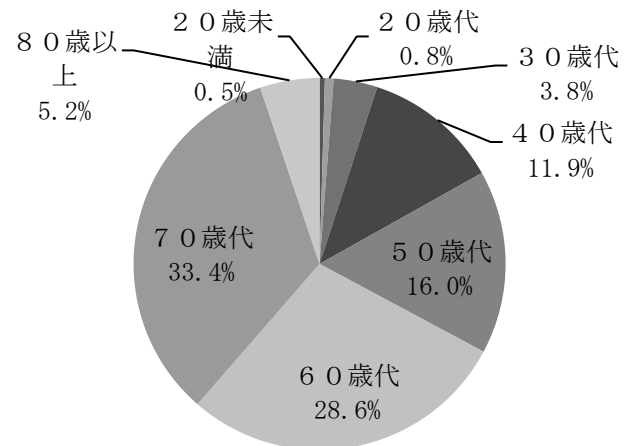
質問1 お住まいの地区を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
瓜連地区	95	14.4%
額田地区	22	3.3%
戸多地区	36	5.5%
五台地区	116	17.6%
神崎地区	62	9.4%
菅谷地区	241	36.6%
芳野地区	40	6.1%
木崎地区	46	7.0%
合計	658	100.0%



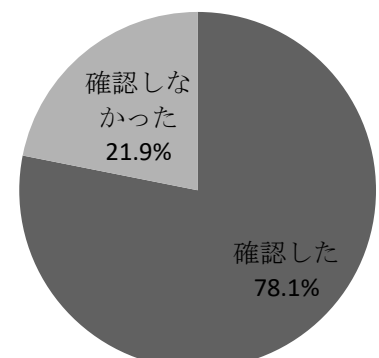
質問2 年齢(令和4年4月1日現在)を教えてください。

選択肢	回答数	構成比
20歳未満	3	0.5%
20歳代	5	0.8%
30歳代	25	3.8%
40歳代	78	11.9%
50歳代	105	16.0%
60歳代	188	28.6%
70歳代	220	33.4%
80歳以上	34	5.2%
合計	658	100.0%



質問3 訓練前に配布しました「原子力災害に備えた屋内退避対応マニュアル」を確認しましたか。

選択肢	回答数	構成比
確認した	507	78.1%
確認しなかった	142	21.9%
合計	649	100.0%



★R3年「確認した」66.4%

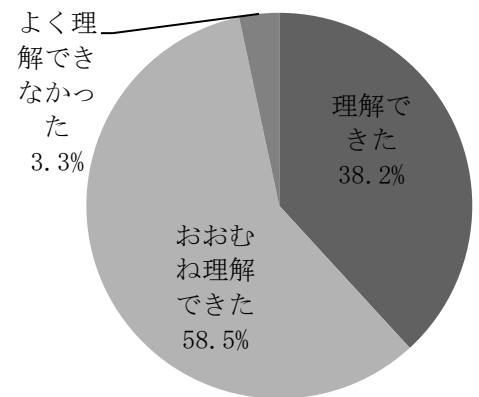
「確認しなかった」33.6%

質問3で「確認した」と回答したかたへの質問 内容は理解できましたか。

選択肢	回答数	構成比
理解できた	194	38.2%
概ね理解できた	297	58.5%
よく理解できなかった	17	3.3%
合計	508	100.0%

★R3年「理解できた」29.0%

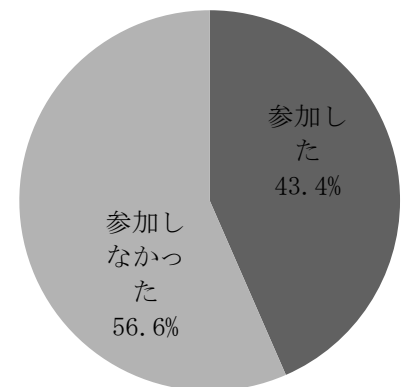
「概ね理解できた」61.7%



質問4 訓練に参加しましたか。

選択肢	回答数	構成比
参加した	285	43.4%
参加しなかった	371	56.6%
合計	656	100.0%

★R3年「参加した」24.1%

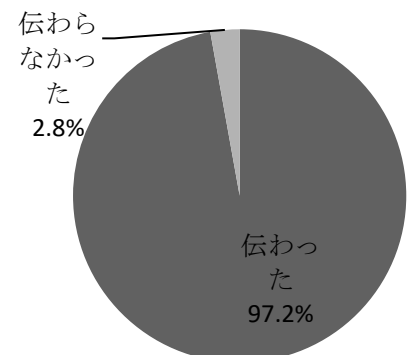


参加しなかった理由

- 予定があった（仕事、家庭の都合等）
- 訓練内容がわからなかった
- 訓練があることを知らなかった
- 関心が薄い・無い

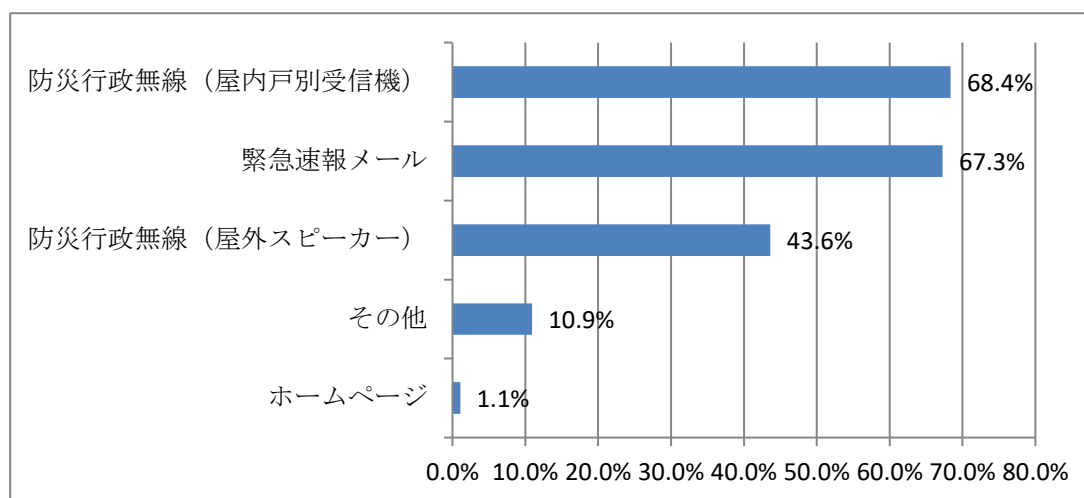
質問5(1)市が防災行政無線や緊急速報メールなどで発信した情報は伝わりましたか。

選択肢	回答数	構成比
伝わった	275	97.2%
伝わらなかった	8	2.8%
合計	283	100.0%



質問5(1)で「伝わった」と回答したかたへの質問 どの広報手段でしたか。

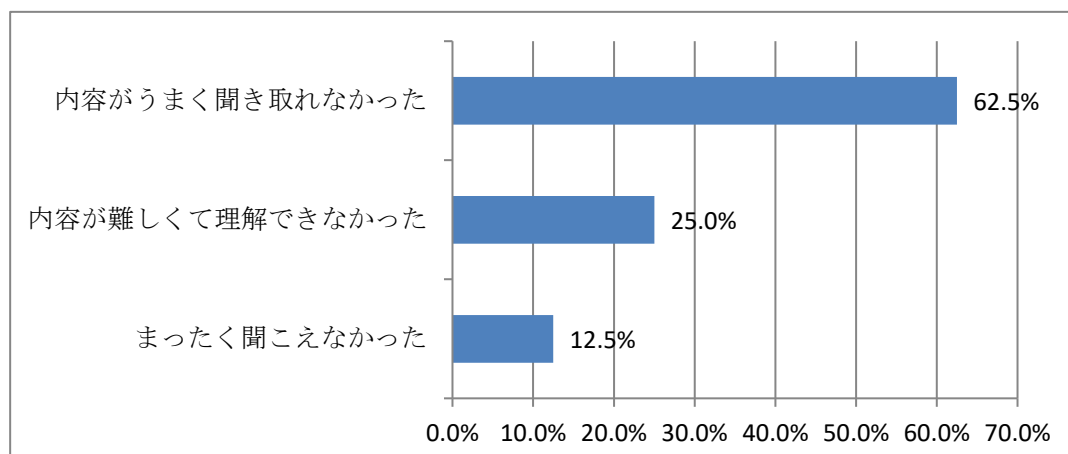
選択肢	回答数	構成比	選択率
防災行政無線（屋外スピーカー）	120	22.8%	43.6%
防災行政無線（屋内戸別受信機）	188	35.7%	68.4%
緊急速報メール	185	35.2%	67.3%
ホームページ	3	0.6%	1.1%
その他	30	5.7%	10.9%
合計	526	100.0%	191.3%



※グラフは選択率を表示

質問5(1)で「伝わらなかった」と回答したかたへの質問 その理由は。

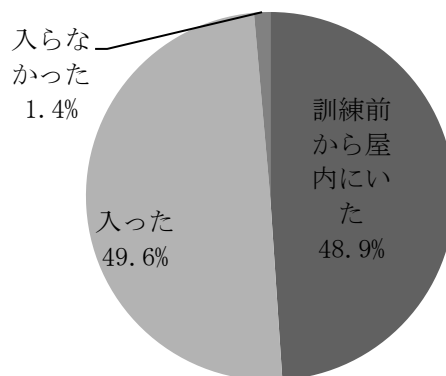
選択肢	回答数	構成比
まったく聞こえなかった	1	12.5%
内容がうまく聞き取れなかった	5	62.5%
内容が難しくて理解できなかった	2	25.0%
合計	8	100.0%



※グラフは選択率を表示

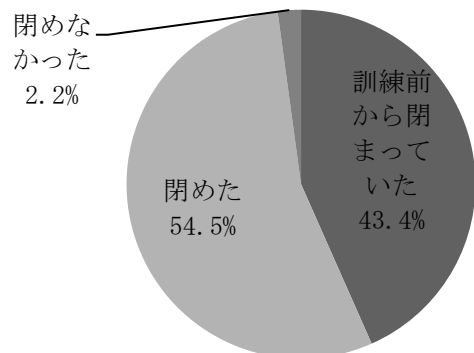
(2) 建物の中に入りましたか。

選択肢	回答数	構成比
訓練前から屋内にいた	139	48.9%
入った	141	49.6%
入らなかった	4	1.4%
合計	284	100.0%



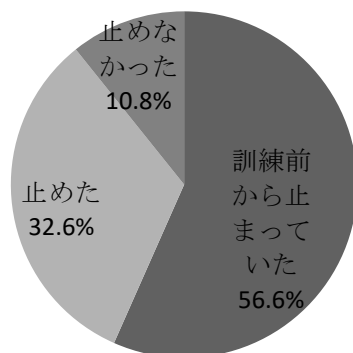
(3) 外気が入らないよう、ドアや窓を閉めましたか。

選択肢	回答数	構成比
訓練前から閉まっていた	121	43.4%
閉めた	152	54.5%
閉めなかった	6	2.2%
合計	279	100.0%



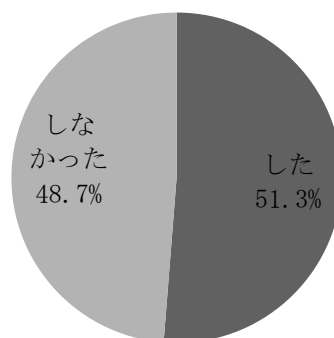
(4) 換気扇など、外気を取り込む設備を止めましたか。

選択肢	回答数	構成比
訓練前から止まっていた	158	56.6%
止めた	91	32.6%
止めなかった	30	10.8%
合計	279	100.0%



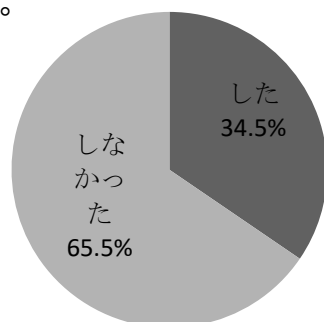
(5) 窓などに隙間がないか確認しましたか。

選択肢	回答数	構成比
した	143	51.3%
しなかった	136	48.7%
合計	279	100.0%



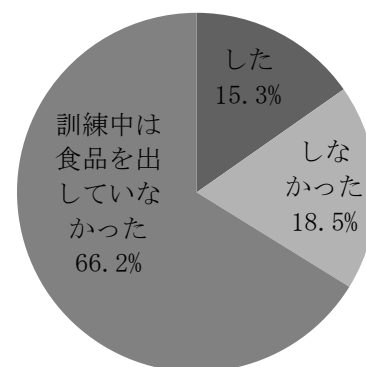
(6) 避難に備え、非常時持ち出し品の準備又は確認をしましたか。

選択肢	回答数	構成比
した	96	34.5%
しなかった	182	65.5%
合計	278	100.0%



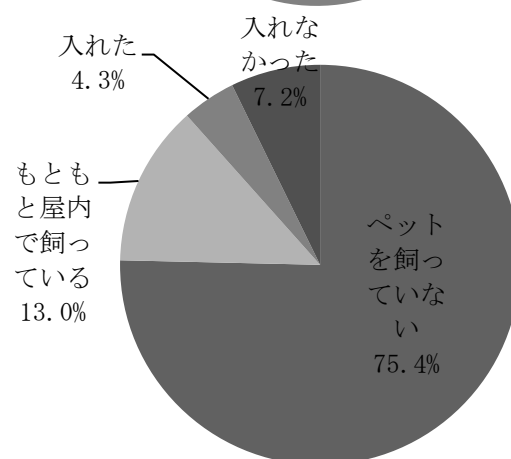
(7) 食品はフタやラップをして冷蔵庫や戸棚に保管しましたか。

選択肢	回答数	構成比
した	42	15.3%
しなかった	51	18.5%
訓練中は食品を出していなかった	182	66.2%
合計	275	100.0%



(8) ペットを屋内に入れましたか。

選択肢	回答数	構成比
ペットを飼っていない	208	75.4%
もともと屋内で飼っている	36	13.0%
入れた	12	4.3%
入れなかった	20	7.2%
合計	276	100.0%



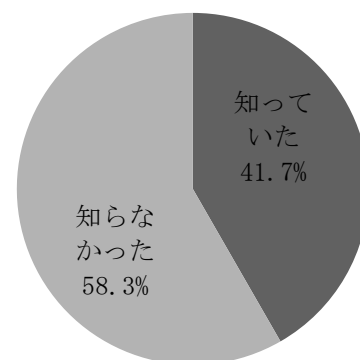
質問6 原子力災害が発生して避難する場合、次のことを知っていましたか。

※設問の誘導に不備があり一部の回答者は未回答

① バスなどで避難する場合の一時集合所

選択肢	回答数	構成比
知っていた	201	41.7%
知らなかった	281	58.3%
合計	482	100.0%

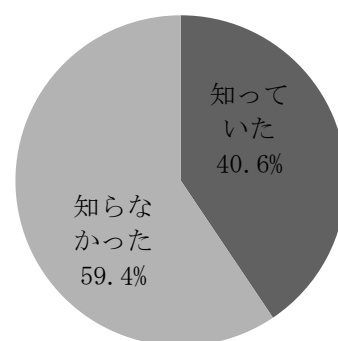
★R3年「知っていた」 27.1%



② 主な避難経路

選択肢	回答数	構成比
知っていた	196	40.6%
知らなかった	287	59.4%
合計	483	100.0%

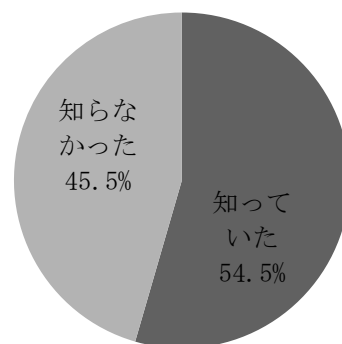
★R3年「知っていた」 26.9%



③ 指定避難所(筑西市・桜川市の各避難所)

選択肢	回答数	構成比
知っていた	261	54.5%
知らなかった	218	45.5%
合計	479	100.0%

★R3年「知っていた」 45.0%

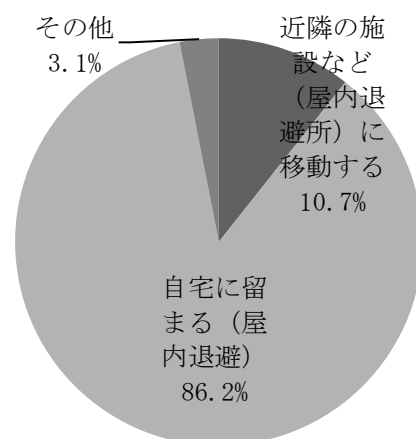


質問7 原子力災害が発生し、お住まいの地域に屋内退避指示があった場合、どのような行動を取りますか。

選択肢	回答数	構成比
近隣の施設など(屋内退避所)に移動する	69	10.7%
自宅に留まる(屋内退避)	558	86.2%
その他	20	3.1%
合計	647	100.0%

その他の意見

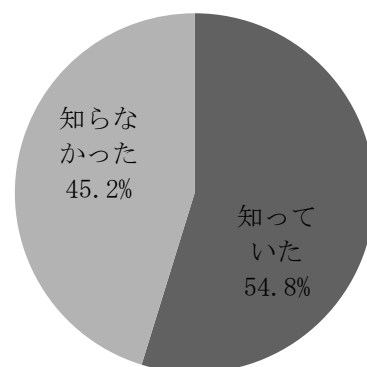
- 職場に行く
- 親族宅に避難
- 情報を収集してから避難
- なるべく遠くへ避難
- 避難先ではない他の市町村へ避難



質問8 段階的な住民避難について、知っていましたか。

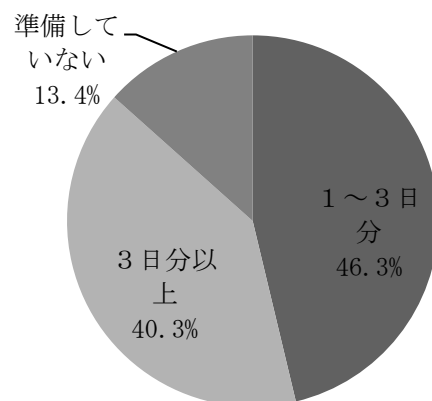
選択肢	回答数	構成比
知っていた	356	54.8%
知らなかった	294	45.2%
合計	650	100.0%

★R3年「知っていた」 37.7%



質問10 災害に備え、ご家庭にはどれくらいの食糧を備蓄していますか。

選択肢	回答数	構成比
1～3日分	297	46.3%
3日分以上	259	40.3%
準備していない	86	13.4%
合計	642	100.0%



質問11 自由記述(主な意見)

【訓練の実施について】

- ・UPZ の住民も避難訓練を実施してほしい
- ・実際に原子力災害が発生した場合、訓練と同じ行動をとれるか不安
- ・意識・関心が低い(自分・周りの人達)

【広報について】

- ・訓練があることを知らなかった
- ・原子力災害時の避難について教えてほしい
- ・原子力の用語が難しい(PAZ・UPZ等)

【情報伝達について】

- ・スマホに連絡・指示があったので、行動できた
- ・防災行政無線(戸別受信機)から情報を容易に取得できた
※音声聞こえず、内容が把握できなかったかたもいた
- ・普段放送される音声と一緒に声なので緊急事態と判断できない
- ・迅速な情報提供をしてほしい(災害の状況など)

【避難について】

- ・避難先まで行けるか不安(渋滞・身体的理由)
- ・天候状況なども考慮して避難したい
- ・避難先も円滑に受け入れてもらえるのか不安

【普段の備えについて】

- ・防災用品、備蓄食糧の見直しができた
- ・市が配布したガイドマップを再確認したい
- ・原子力災害に備えた知識が少ない

【再稼働・廃炉について】

- ・再稼働反対
- ・原発を新規に作って安全に利用することを希望
- ・原子力発電所に頼らない方針に進むべき

【その他】

- ・原子力災害が発生しないようにしてほしい
- ・シェルターを設置してほしい

那珂市原子力防災訓練（本米崎地区）に関するアンケート

本日は、那珂市原子力防災訓練にご参加いただきありがとうございます。アンケートへの記入にご協力をお願いします。

アンケート結果については、今後の原子力防災訓練や広域避難計画の実効性の向上に活用させていただきます。

以下の質問について、記入、または、該当する選択肢の□に✓印を付けてください。

質問 1 あなたの年齢（令和 4 年 4 月 1 日現在）を教えてください。

- ☐ 20 歳未満 ☐ 20 歳代 ☐ 30 歳代 ☐ 40 歳代
☐ 50 歳代 ☐ 60 歳代 ☐ 70 歳代 ☐ 80 歳以上

質問 2 あなたのお住まいの地域が、P A Z または U P Z のどちらの区分に該当するのかわっていましたか。

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

質問 3 原子力災害が発生して避難をする場合、次のことを知っていましたか。

① バスなどで避難する場合の一時集合所

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

② 主な避難経路

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

③ 指定避難所（筑西市・関城西小学校）

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

質問 4 安定ヨウ素剤の配布を受けた際の説明は理解できましたか。

- ☐ 十分理解できた
☐ 概ね理解できた
☐ 理解できなかった

裏面に続きます

質問 5

原子力災害が発生し、あなたがお住まいの地域に避難指示があった場合、どのように避難しますか。

- ☐ 自家用車などを使用して、市が指定する避難所まで避難する
☐ 自家用車などを使用して、親戚・知人宅など避難所以外の場所へ避難する
☐ 市などが用意するバスなどで、市が指定する避難所まで避難する
☐ その他 → 下記にあなたの行動を記入してください

質問 6

今回の訓練において、市が防災行政無線や緊急速報メールなどで発信した情報はあなたに伝わりましたか。

□ 伝わった

それは、どの広報手段でしたか？（複数回答可）

- ☐ 防災行政無線（屋外スピーカー） ☐ 防災行政無線（屋内戸別受信機） ☐ 緊急速報メール
☐ ホームページ ☐ 防災アプリ ☐ LINE
☐ メールマガジン ☐ Twitter
☐ その他（ ）

□ 伝わらなかった

その理由も教えてください

- ☐ 内容が難しく理解できなかった
☐ 内容がうまく聞き取れなかった
☐ まったく聞こえなかった
☐ その他（ ）

質問 7

災害に備え、ご家庭にはどれくらいの食糧を備蓄していますか。

- ☐ 3 日以上
☐ 1 ～ 3 日分
☐ 準備していない

質問 8

筑西市に避難して気づいた点やご意見がありましたら記入してください。

質問 9

本日の訓練で気づいた点や原子力災害時の避難など全般に関するご感想、ご意見がありましたら記入してください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

那珂市原子力防災訓練（屋内退避訓練）に関するアンケート

11月20日（日）に実施しました那珂市原子力防災訓練（屋内退避訓練）に関するアンケートです。訓練の終了後にご記入をお願いします。

アンケート結果については、今後の原子力防災訓練や広域避難計画の実効性の向上に活用させていただきますので、ご協力をお願いします。

以下の質問について、記入、または、該当する選択肢の□に✓印を付けてください。

質問1 あなたのお住まいの地区を教えてください。

□神崎地区 □額田地区 □菅谷地区 □五台地区
□戸多地区 □芳野地区 □木崎地区 □瓜連地区

質問2 あなたの年齢（令和4年4月1日現在）を教えてください。

□20歳未満 □20歳代 □30歳代 □40歳代
□50歳代 □60歳代 □70歳代 □80歳以上

質問3 訓練前に配布しました「原子力災害に備えた屋内退避対応マニュアル」を確認しましたか。

□確認した

内容は理解できましたか？

□理解できた
□概ね理解できた
□よく理解できなかった

□確認しなかった

質問4 訓練に参加しましたか。

□参加した

□参加しなかった（理由： ）

→ 参加しなかった方は質問6へお進みください

質問5 「原子力災害に備えた屋内退避対応マニュアル」の「屋内退避チェックリスト」にある項目の実施状況についてお聞きします。

(1) 市が防災行政無線や緊急速報メールなどで発信した情報はあなたに伝わりましたか。

□伝わった

それは、どの広報手段でしたか？（複数回答可）

□防災行政無線（屋外スピーカー）
□防災行政無線（屋内戸別受信機）
□緊急速報メール
□ホームページ
□その他（ ）

□伝わらなかった

その理由も教えてください（複数回答可）

□内容が難しくて理解できなかった
□内容がうまく聞き取れなかった
□まったく聞こえなかった
□その他（ ）

(2) 建物の中に入りましたか。

□入った

□入らなかった → 質問6へお進みください

□訓練前から屋内にいた

(3) 外気が入らないよう、ドアや窓を閉めましたか。

□閉めた

□閉めなかった

□訓練前から閉まっていた

(4) 換気扇など、外気を取り込む設備を止めましたか。

□止めた

□止めなかった

□訓練前から止まっていた

(5) 窓などに隙間がないか確認しましたか。

□した

□しなかった

(6) 避難に備え、非常時持ち出し品の準備又は確認をしましたか。

□した

□しなかった

裏面に続きます

(7) 食品はフタやラップをして冷蔵庫や戸棚に保管しましたか。

- ☐ した
☐ しなかった
☐ 訓練中は食品を出していなかった

(8) ペットを屋内に入れましたか。

- ☐ 入れた
☐ 入れなかった
☐ もともと屋内で飼っている
☐ ペットを飼っていない

質問 6 原子力災害が発生して避難する場合、次のことを知っていましたか。

①バスなどで避難する場合の一時集合所

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

②主な避難経路

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

③指定避難所（筑西市・桜川市の各避難所）

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

質問 7 原子力災害が発生し、あなたがお住まいの地域に屋内退避指示があった場合、どのような行動を取りますか。

- ☐ 自宅に留まる（屋内退避）
☐ 近隣の施設など（屋内退避所）に移動する
☐ その他 → 下記にあなたの行動を記入してください

質問 8 あなたがお住まいの地域はUPZに該当します。広域避難計画では、PAZへの避難指示に合わせ、UPZへは屋内退避指示があり、その後、放射線量の測定結果などをもとに、避難が必要な地区を特定し一時移転・避難指示をします。このような段階的な住民避難について、知っていましたか。

- ☐ 知っていた
☐ 知らなかった

質問 9 災害に備え、ご家庭にはどれくらいの食糧を備蓄していますか。

- ☐ 3日分以上
☐ 1～3日分
☐ 準備していない

質問 10 本日の訓練で気づいた点や原子力災害時の屋内退避・避難など全般に関する感想、ご意見がありましたら記入してください。

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

《本アンケートに関するお問い合わせ・提出先》

那珂市 市民生活部 防災課 原子カグループ

電 話 : 029-298-1111 (内線445) F A X : 029-298-1357

メール : bousai@city.naka.lg.jp



※この機会にあらためて「原子力災害に備えた避難ガイドマップ」をご家族で目を通していただき、すぐに取り出せる場所へ置いておきましょう。

那珂市原子力防災訓練参加者用（本米崎地区で避難訓練に参加される皆さまへ）

原子力災害に備えた 避難対応マニュアル:PAZ 用

東海第二発電所における原子力災害に備え、原子力防災に関する市民の皆様の意識高揚や理解促進を図ることを目的に那珂市原子力防災訓練（住民避難訓練）を実施します。

このマニュアルは、万が一の原子力災害発生時に、市民の皆さまが「適切な行動」をとっていただくため作成したものです。

あらかじめお読みいただき、訓練当日は、このマニュアルをご活用ください。

今回、訓練参加に事前申込されていない方は、訓練当日、避難等の実施は必要ありませんがこのマニュアルをご参考としてください。

1 訓練の概要

- (1) 訓練の日程 令和4年11月20日（日） 8:40 頃から 15:00 頃まで
- (2) 訓練対象の方
本米崎地区（事前申込者のみ）
※東海第二発電所からおおむね 5 km 圏内（PAZ）地区の住民の方
- (3) 訓練の内容

時間	市からの情報	参加者の皆さまの行動
8:40 頃	「避難準備情報」発表	避難に備え、家の中に入るよう、家族や近所の方などに声をかけ合うなどしてください。
9:00 頃	「避難指示」発表	当マニュアル裏面に記載の「避難チェックリスト」を確認しながら、避難を実施してください。 9:00 参加者は原則徒歩で一時集合所（旧本米崎小）に避難を開始 9:20～10:00 一時集合所（旧本米崎小）で受付手続き 安定ヨウ素剤配布 10:00～11:30 避難バスへ乗車し筑西市へ移動 車内で原子力防災講習会など実施 11:30～13:30 筑西市避難所（関城西小学校） 受付手続き・避難所体験等 15:00 頃 一時集合所到着後解散（訓練終了）

※ 市からのお知らせは防災行政無線やエリアメールなどで行います。

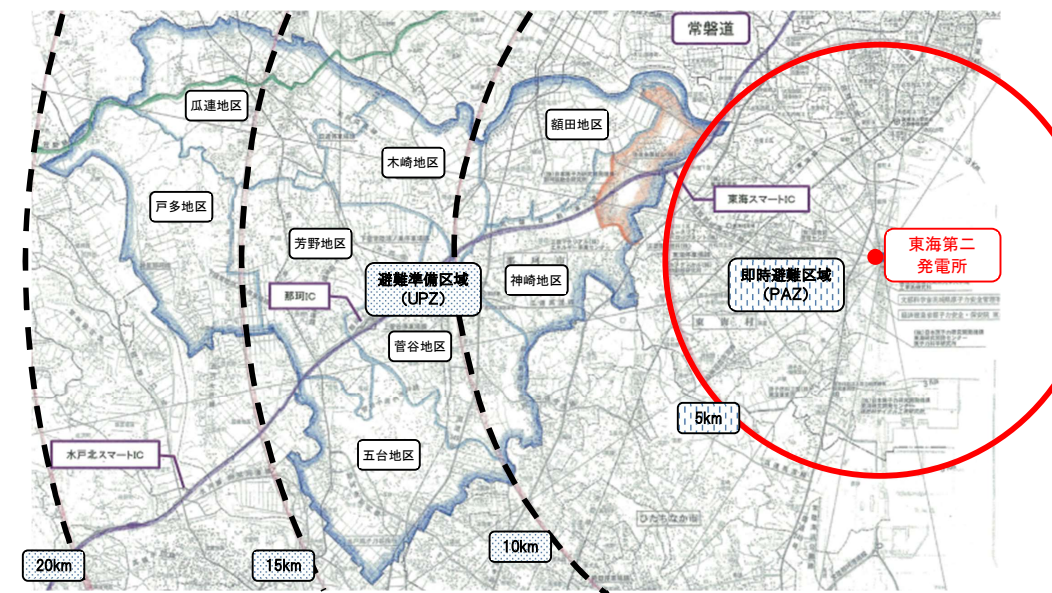
※ 8:40～9:20 頃、本訓練の実施に合わせ、別に「UPZ 屋内退避訓練」等を実施しております。

2 原子力災害が発生した場合の対応

(1) 原子力発電所からの距離で基本の対応（防護措置）が異なります。

区域名	区域の範囲	基本の対応（防護措置）
即時避難区域(PAZ) 『Precautionary Action Zone』 ＜おおむね 5km 圏＞	○本米崎地区	○放射性物質放出前に 即時避難を実施 ○避難の際に、速やかに 安定ヨウ素剤を服用
避難準備区域(UPZ) 『Urgent Protective Action Planning Zone』 ＜おおむね 5～30km 圏＞	○本米崎を除く市内全域	○まずは屋内退避を実施 ○その後、放射線量の測定結果などを踏まえて、避難が必要な区域を特定して一時移転・避難を実施 ○必要に応じて安定ヨウ素剤を服用
避難準備区域(UPZ)外 ＜おおむね 30km 超＞	※当市にはありません	○必要に応じて屋内退避を実施 ○その後、避難準備区域(UPZ)における対応と同様に避難等を実施

(2) 原子力災害対策を重点的に実施すべき地域の範囲



裏面に続きます

3 原子力災害から「身を守るため」の行動

原子力災害で何より重要なことは、放射線物質や放射線から身を守ることです。
 そのために覚えておいていただきたい行動のポイントは、「(1) 正確な情報の入手」
 「(2) 避難」「(3) 安定ヨウ素剤の服用」の3つです。
 状況に応じて適切に行動できるよう、確認しておきましょう。

(1) 正確な情報の入手

- まずは落ち着いて防災行政無線やテレビ、ラジオ、携帯電話などから、正確な情報を入手する。
- 市（または国、県）からの情報を入手して行動するよう、心がけてください。
- うわさやデマなど不確実な情報に惑わされないようにしてください。

市からお知らせする情報

- ◆ 事故の進展状況
- ◆ 避難の必要性の有無
- ◆ 住民の皆さまにとって
いただく行動 など

(2) 「避難」する際の流れ

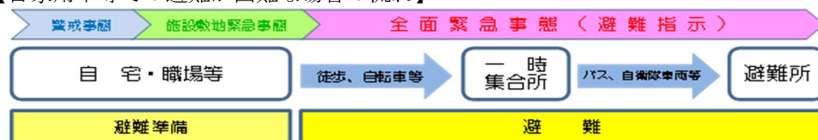
お住まいの区域に対し、市から避難指示があった場合、市が指定する避難所を目指してください。

その際の避難手段は、**自家用車での乗り合いを基本**とし、自家用車での避難が困難な場合は市などが用意する**バス等**で避難してください。

【自家用車等での避難が可能な場合の流れ】



【自家用車等での避難が困難な場合の流れ】



(3) 安定ヨウ素剤の服用

- 避難の際に、速やかに服用できるよう事前に受け取っておいてください。
- 服用のタイミングが重要になります。市の指示に従い服用してください。

《非常時持ち出し品の例》



4 避難チェックリスト

避難するときに確認してください。

- ☐ 避難指示が出てから避難する。
- ☐ 電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるなど火の始末を忘れずに行う。
- ☐ 貴重品や最小限の着替え、持病の薬など非常時持出品等を携行する。
- ☐ 近所で声をかけあう。
- ☐ 肌を露出しないよう長そで・長ズボン・帽子・マスク・手袋などを身につける。
- ☐ 戸締りを忘れずに行う。
- ☐ 安否確認を効率的かつ迅速に行えとともに避難済みであることが確認できるよう、自宅の玄関付近に目印（白いタオルなど）を表示する。
- ☐ 原則、自家用車で避難する。
- ☐ できる限り、乗り合いを心がけて渋滞緩和に協力する。
- ☐ 自家用車避難ができない場合は、一時集合所（旧本米崎小学校）に集合し、市などが用意したバスや福祉車両で避難する。

5 訓練当日及び当マニュアルに関するお問い合わせ

那珂市市民生活部 防災課原子力グループ

電話：029-298-1111 内線 445 FAX：029-298-1357



避難所



※この機会にあらためて「原子力災害に備えた避難ガイドマップ」をご家族で目を通していただき、すぐに取り出せる場所へ置いておきましょう。

那珂市原子力防災訓練（屋内退避訓練）参加者用

原子力災害に備えた 屋内退避対応マニュアル:UPZ 用

東海第二発電所における原子力災害に備え、原子力防災に関する市民の皆様の意識高揚や理解促進を図ることを目的に那珂市原子力防災訓練（屋内退避訓練）を実施します。

このマニュアルは、万が一の原子力災害発生時に、市民の皆さまに特にとっていただきたい行動「屋内退避」をまとめたものです。

あらかじめお読みいただき、訓練当日は、このマニュアルを確認しながら無理のない範囲で「屋内退避訓練」の実施をお願いします。

1 訓練の概要

- (1) 訓練の日程 令和4年11月20日（日） 8:40 頃から 9:20 頃まで
- (2) 訓練対象の方
本米崎を除く市内全域の方
※東海第二発電所からおおむね 5 km以上の住民の方
- (3) 訓練の内容

時間	市からの情報	市民の皆さまの行動
8:40 頃	「屋内退避準備情報」発表 (エリアメール・防災無線)	屋内退避に備え、家の中に入るよう、家族や近所の方などに声をかけ合うなどしてください。
9:00 頃	「屋内退避指示」発表 (エリアメール・防災無線)	裏面に記載の「4 屋内退避チェックリスト」を確認しながら、 建物の中に避難 してください。
9:20 頃	「屋内退避指示解除」発表 (防災無線)	左記の屋内退避指示解除及び訓練終了の発表後、 訓練終了です。 お疲れさまでした！
★参考 8:40～ 15:00	本米崎の住民（一部の方）は、本訓練『UPZ 屋内退避訓練』の実施に合わせ、別に「PAZ 住民避難訓練」等を実施しております。	

※ **（太枠）内**が今回の訓練（屋内退避訓練）の範囲になります。

※ 市からのお知らせは防災行政無線やエリアメールなどで行います。

2 原子力災害が発生した場合の対応

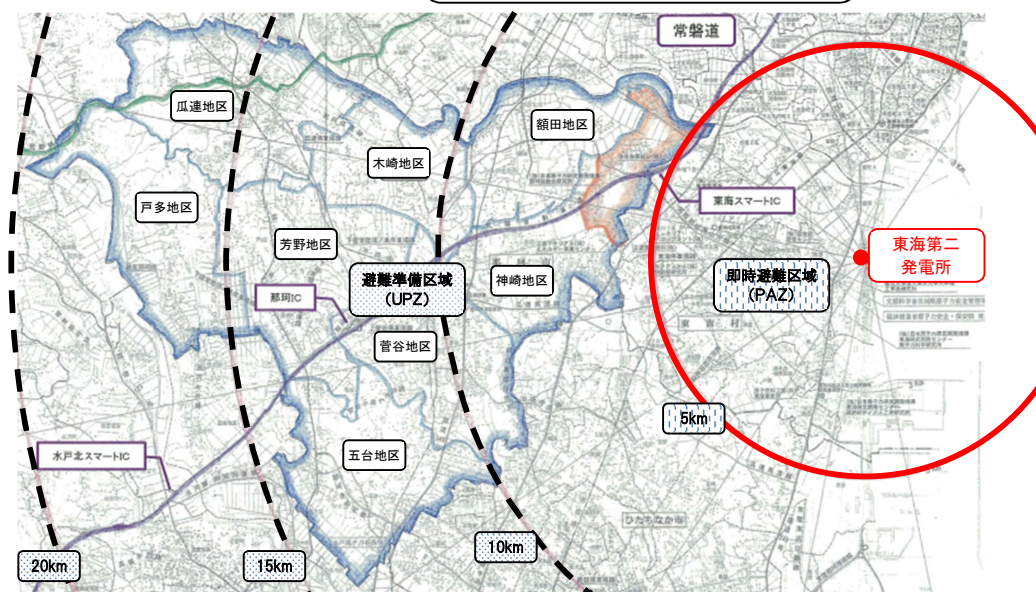
(1) 原子力発電所からの距離で基本の対応（防護措置）が異なります。

区域名	区域の範囲	基本の対応（防護措置）
即時避難区域(PAZ) 『Precautionary Action Zone』 ＜おおむね 5km圏＞	○本米崎地区	○放射性物質放出前に即時避難を実施 ○避難の際に、速やかに安定ヨウ素剤を服用
避難準備区域(UPZ) 『Urgent Protective Action Planning Zone』 ＜おおむね 5～30km圏＞	○本米崎を除く市内全域	○まずは屋内退避を実施 ○その後、放射線量の測定結果などを踏まえて、避難が必要な区域を特定して一時移転・避難を実施 ○必要に応じて安定ヨウ素剤を服用
避難準備区域 (UPZ)外 ＜おおむね 30km超＞	※当市にはありません	○必要に応じて屋内退避を実施 ○その後、避難準備区域(UPZ)における対応と同様に避難等を実施

(2) 原子力災害対策を重点的に実施すべき地域の範囲

基本の行動は
「**まずは屋内退避**」です。

放射線量の測定結果などを踏まえて、
避難が必要な場合は「**特定の区域のみ避難**」します。



裏面に続きます

3 「まずは屋内退避」

(1) 屋内退避とは

自宅や公共施設などの屋内に入り、呼吸等で放射性物質が体内に入ることとおさえると同時に、屋外の放射性物質からの放射線を遮ることにより被ばくを少なくすることができる、最も基本的かつ重要な行動です。

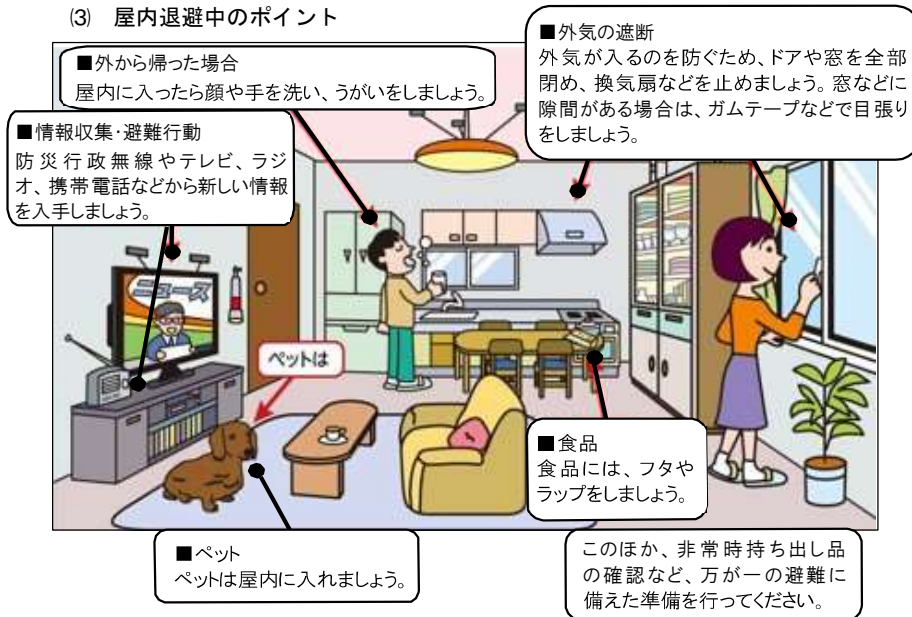
(2) 屋内退避の重要性

あわてて自家用車などで一斉に避難した場合、交通渋滞などにより、かえってリスクが高まる可能性があります。

また、屋内に入り、防災行政無線やテレビ、ラジオ、携帯電話などから災害の状況などの情報を入手することで、次の行動に備えることができます。

市は、原子力発電所の事故の状況を踏まえ、あらかじめ屋内退避準備情報を発表するとともに、放射性物質が放出される前に屋内退避を指示しますので、あわてず建物の中に入ってください。屋内退避の解除や避難の指示が発表されるまでは、屋内退避を継続してください。

(3) 屋内退避中のポイント



(4) 避難指示が発表された場合

事態が進行し、放射性物質の放出があった場合、放射線量の測定結果等を踏まえ、市は、避難が必要な区域を地区単位で特定し、その区域の住民に対して避難を指示します。指示された区域の住民の方は、あわてずに避難してください。（避難が指示された区域以外の住民は屋内退避を継続します。）

避難する際は、放射性物質の肌への付着や呼吸による体内への取り込みを防ぐため、ビニールカッパ（フードのついたものの方が良）、帽子、マスク、手袋、長そで、長ズボンを着用して避難してください。

4 屋内退避チェックリスト

訓練では、以下の項目を確認しながら屋内退避を実施してください。

- ☐ 防災行政無線やテレビ、ラジオ、携帯電話などから、新しい情報を入手する。
(訓練当日はテレビ、ラジオを通じた情報提供はいたしません。)
- ☐ 市からの情報を待ちながら、冷静に行動する。
- ☐ あわてず落ち着いて、まずは建物の中に入る。
- ☐ 外気が入らないよう、ドアや窓を閉める。
- ☐ 換気扇のほか、外気を取り込む設備などを止める。窓などに隙間がある場合は、ガムテープなどで目張りをする。
- ☐ 避難に備え、非常時持ち出し品を準備する。
- ☐ 食品はフタやラップをして冷蔵庫や戸棚に保管する。
- ☐ ペットは屋内に入れる。
- ☐ やむを得ず外出する場合は、長そで・長ズボン・帽子・マスク・手袋などを身につける。
- ☐ 外から帰ったときは、顔や手を洗い、うがいをする。

<屋内退避訓練アンケート>

アンケート結果を検証し、今後の原子力防災訓練や広域避難計画の実効性の向上に活用させていただきますので、アンケート回答にご協力をお願いします。

1. 回答期間

令和4年11月20日(日)午前9時～12月31日(土)午後11時59分

2. 回答方法

「いばらき電子申請・届出サービス」でオンライン回答する
以下に記載のQRコードに接続し、回答フォームから回答してください。



その他にも以下の方法でアンケート回答が可能です
(1) 市ホームページからオンライン回答
(2) 市ホームページからアンケート票を入手し、FAXで回答
(3) 市ホームページからアンケート票を入手し、郵送で回答

5 訓練当日及び担当マニュアルに関するお問い合わせ

那珂市市民生活部 防災課原子力グループ
電話：029-298-1111 内線 445 FAX：029-298-1357



※この機会にあらためて「原子力災害に備えた避難ガイドマップ」をご家族で目を通していただき、すぐに取り出せる場所へ置いておきましょう。